平成27年度　学校評価総括表

五條市立五條中学校

学　校　教　育　目　標　（めざす生徒像）
◎知・徳・体の調和がとれた心豊かなたくましい生徒を育成する。 ＜生徒像＞　○ 進んで学び考える生徒　　○ 思いやりのある生徒　　○　自らを鍛える生徒

本年度の重点目標	具体的目標	総合評価
①　確かな学力の育成	・個に応じた指導を充実するとともに、基礎・基本的な知識及び技能を定着させるための学習活動を工夫し、各教科において言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。	A
②　豊かな心の育成	・自分や他の人への理解を深め、生命を大切にする心、人権を尊重する心や自立心、責任感、正義感を育む。家庭学習の習慣を身につけさせる。	
③　活力ある心身の育成	・健康で安全な生活習慣を確立し、体力の向上を図ると共に積極的に運動に取り組む態度を育てる。	
④　開かれた学校作り	・ＰＴＡ及び自治会等地域組織との連携をはかる。	

◎確かな学力の育成

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価	項目の評価	成果・課題等
基礎・基本の定着	朝読書・読書習慣の推進	図書の貸し出し目標700冊	B	A	・今年度は年間貸し出し冊数が403冊で、年間目標に達成できなかった。来年度は生徒がより来室しやすい環境を整えていきたい。 ・数学における少人数指導により授業についていくことが難しい生徒をサポートし、学習に対する意欲向上を図った。少しずつではあるが、わからないままにせず、質問をする生徒も増えた。 ・言語活動の充実を図るため、昨年度より少年の主張「奈良県大会」に全校生徒参加で取り組んだ。今年度は、努力賞２名が入賞し表彰された。さらに、優良賞１名は奈良県大会で発表する機会も得た。また、作文発表会を設定し、入賞生徒の作品に耳を傾け、感想文を書いた。昨年の取り組みで解析された本校生徒の社会的視野の狭さについて、入賞作品に触れることで、捉えるべき視点や、表現力について、学ぶ機会となった。来年度は教科の授業においても、さらに言語活動を充実させ、力をつけていくことが課題である。引き続き取り組みを進めたい。 ・今年も、全校生に家庭生活を見つめさせるノート（夢現の力）を実施し、提出率は１年100%　２年95%　３年が82%であった。 ・昨年度から引き続き土曜塾を開講した。継続的に参加する生徒も増えつつある。より多くの生徒の参加を促すため、開催時期や時間帯、対象学年などを検討していく必要がある。 ・放課後の補充学習(定着ステップ）をおこなった。参加率は46%であった。基本問題をくり返しおこなうことで、学習に対する意欲が向上し定期テストでは一定の成果がみられた。 ・各教科のシラバスを作成するとともに、学習の手引きを作成し学習目標をよりわかりやすく提示した。 ・全教師が言語活動に主眼をおいた指導案を作成し,公開授業を行った。 ・電子黒板等の環境整備とともに、デジタル教科書やプロジェクターによる資料提示、Webを利用した調べ学習等ICTの活用を進めている。
	少人数指導、少人数学級の活用	第３学年の少人数編成 全学年数学科の少人数指導の実施	A		
	言語活動の充実	全生徒参加による「少年の主張」実施	A		
	学習習慣の定着化	「夢現の力」提出率90% チャイム着席の励行 放課後補習及び土曜塾の開講に向けて	A		
学習意欲を引きだす授業の展開	教科・領域の学習を充実させる効果的な指導を行う。	シラバスの作成 授業研究の充実 ICTの活用	A		

◎確かな学力の育成

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価		成果・課題等
進路・ キャリア教育	組織的な進路指導 関係諸機関との連携	職場体験学習の実施 講師の招聘	A	A	・１年生は、職業についてインターネットを使った調べ学習と、２業種５名の方を講師として招いての講演と体験を行った。また総合学習を通して生徒に望ましい職業観について考える機会をを設定した。２年生では２回講師を招き、「マネー講座」で金融教育をを受け、２０カ所の事業所の協力を仰ぎ、３日間の職場体験学習を実施した。自分の体験として「働くこと」の厳しさや大切さと、仕事に対する誇りを学んだ。３年生では、PTA進路対策委員会の協力も得ながら、進路講話を実施する他、進路選択への意識を高めた。生徒自らが自分の個性を大切にしながら、将来自らが望む職業に就くための学習を進めていきたい。

◎豊かな心の育成

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価	項目の評価	成果・課題等
学級指導 特別活動	学びにふさわしい環境と人間関係づくり	Q-U検査の活用 生徒会活動と学校行事の活性化	A	A	生徒会を中心に、学校行事を盛り上げ、募金活動や地域との連携をはかる「ひまわりプロジェクト２０１６」「防災宿泊訓練」に加え、「花いっぱい運動」の一環としてチューリップやパンジーの苗を植える活動にも取り組むことができた。また、積極的に活動に参加する生徒も増えた。年度中に行ったＱＵ検査について、学級経営や生徒指導に活用した。また、教員もＱＵの研修になるべく参加するようにし、教員間の知識の共有に役立てることができた。 「人権を確かめ合う日の集会」を設定し、人権に関する知識を習得した上で、人権作文などの発表会を設けることで生徒間の人権に関する意識を共有し合い、なかまの「自分と違うところ」に気付かせることができた。ステップ学習では多くの生徒が学習に取り組み、基礎学力の向上につなげることができた。特別ステップでは地域の方とも交流できた。
生徒指導	よりよい集団の育成	リーダーの育成	A		
人権教育・ 特別支援教育	自他の持つ人権を大切に、よりよく生きる力を身につける一方で、人との関わりを大切にし、学ぶことのできる「豊かな心」を持つ生徒を育てる	「人権を確かめ合う日」集会の設定 ステップ学習の充実	A		

◎活力ある心身の育成

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価	項目の評価	成果・課題等
運動を通した体力の向上	部活動加入率90% 体力テストの活用	部活動の活性化。 体力テストの結果を掲示することによって体力向上の意識を高める	B	A	部活動加入率は現状８６％である。部活動においても加入率は９０％に達することができなかった。 意識を高めることで苦手な部分の向上する事ができ、長距離においても昨年度と同様の形で実施し、向上が見られた。
健康で安全な生活習慣の確立	危機管理意識の育成	「安全・安心」な学校づくりの推進	A		毎日の登下校指導をはじめ、校外巡視を通して地域との連携を図る事ができた。様々な問題行動や生徒理解に対して、学年集団・学校全体でスクールサポーターや支援員と連絡を密に取りながら組織的に取り組むよう心がけたが今後更に連携を密にしたい。オアシス運動であいさつができた生徒が昨年度より６０％と下降した。（アンケート調査より）目標の７０％を目指し今後意識を高めたい。

◎活力ある心身の育成

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価	項目の評価	成果・課題等
健康で安全な生活習慣の確立	基本的生活習慣の定着 食育の推進	毎朝朝食をとる生徒90% 食に関するアンケートの実施および結果の掲示などによる意識の向上	A	A	学校給食週間を1月に終え、食生活のリズムが、体や心の健康に影響していると思われるため、日頃の食生活を見直すアンケートを実施した。 80%の生徒が朝６時半から７時半ごろに起き、朝食を摂っている。また、30%の生徒が毎日間食や夜食を食べていることが分かった。主にお菓子やジュースでそのうちの20%は、軽食を食べることもあるようだ。生徒達は、1日３回規則正しく食事をすることに気をつけ、家族や仲間と一緒の食事・栄養成分表示や賞味期限などを意識しながら摂取している生徒が多かった。食事量や甘いもの・塩分のとりすぎに気を付けている。さらに、野菜を多く食べること・食事の作法やマナーにも関心をもっている生徒もいることが分かった。結果は、校舎内の廊下に掲示している。今後も、さらに意識の向上を高めたい。

◎開かれた学校作り

評価項目	評価小項目	具体的方策（評価指標）	小項目の評価	項目の評価	成果・課題等
家庭・地域との連携	PTAの活性化	学校と地域が連携・協働する体制の構築	A	A	・学校行事や防災宿泊訓練、ＰＴＡ各委員会活動等に保護者が積極的に参加したり、地域の行事に参加することにより、学校・家庭・地域との連携を密にすることを図った。また、学校評議員制においても連携を深めた。
	地域の教育力の活用	五條学の実施	A		・ふるさと学習では地域の方々を講師に迎え、１年生は市内に生息する絶滅危惧種ヒメタイコウチ、有形文化財藤岡邸について学び、保存への思いを教わった。認知症サポーター養成講座では地域での人とのつながり方を学んだ。２年生では五條新町での「ゆかた教室」とその後の散策を行い、地域の方とふれあうことができ好評であった。また、吉野川でのラフティングで郷土の自然の豊かさを体感し理解を深めた。3年生では公民的分野を通して、五條市の人口や財政上抱える課題、さらには新町通りの「重要伝統的建造物群保存地区」の指定がなぜ必要なのかについて考えた。
	情報の発信	学校新聞・学年だよりの発行 メール連絡網・ＨＰ・Blog等の活用及び活性化	A		・Blogを活用し学校行事や学びの様子の情報発信を行った。各学年で発信を担当することで、昨年度より更新頻度を少しであるが高めることができた。また、月１回の学年通信や保健だよりを通して情報を発信し、連携を深めている。 ・メール連絡網については、市内で不審者情報の連絡にも活用することになった。それに伴い情報をより早く発信できるような方法を検討したい。 ・学校新聞「ふじだな」では、修学旅行や、野外活動・ラフティング体験・職場体験学習・働く人々に学ぶ学習会等の感想文を中心に、生徒達の思いや様子を広く紹介した。多くの方々に協力いただき、今後も活性化させていきたい。